

This copy has been provided by the UBC Archives [or UBC Rare Books and Special Collections] and is to be used solely for research or private study.

YAMAGA YASUTARŌ PAPERS

FOLDER NO.

8-6

VIII - 7

PLEASE RETAIN
ORIGINAL ORDER

山形県
警察
部

昭和
十一年
五月
十一日

時局満腹
一九四一年五月十一日
⑦
9
12
12

23

Y. YAMAGA

◀ ▶

第	一	次	市	場	は	下	落	中	、	斯	ル	場	合	に
東	部	市	場	と	キ	ヤ	ナ	リ	一	年	場	一	録	制
を	配	給	中	に	依	つ	て	ウ	オ	タ	一	結		
の	下	落	を	喰	ひ	止	め	得	る	事	を	現		
に	今	年	其	時	に	実	行	し	金	額	を	着	け	た
と	あ	る	、											
協	同	販	賣	組	合	の	結	成	一	農	業	協	会	の
其	日	の	代	表	者	會	議	で	ア	ス	バ	ウ	カ	ス
協	同	販	賣	の	提	議	が	あ	り	南	フ	レ	ル	一
及	び	此	フ	レ	ル	一	に	共	通	部	を	起	し	
ウ	ト	メ	ト	一	ハ	モ	エ	ド	、	一	ネ	一		
ル	ヤ	一	ノ	ク	ガ	一	致	同	結	し	ル	カ	ス	

一、市、場、の、下、落、を、喰、ひ、止、め、得、る、事、を、現、に、今、年、其、時、に、実、行、し、金、額、を、着、け、た、と、あ、る、

協、同、販、賣、組、合、の、結、成、一、農、業、協、会、の、其、日、の、代、表、者、會、議、で、ア、ス、バ、ウ、カ、ス、協、同、販、賣、の、提、議、が、あ、り、南、フ、レ、ル、一、及、び、此、フ、レ、ル、一、に、共、通、部、を、起、し、ウ、ト、メ、ト、一、ハ、モ、エ、ド、一、ネ、一、ル、ヤ、一、ノ、ク、ガ、一、致、同、結、し、ル、カ、ス、

Y. YAMAGA

に成るゝとある。

由	サ	隣	依	て	待	方	又	来	ある	願	の	卸	ウ	レ	に	。 晩	似
投	一	リ	托	店	つ	ウ	左	る	田	給	市	部	ク	ド	店	市	時
る	賣	の	販	と	て	オ	農	卸	金	給	場	ア	で	即	を	の	の
、	出	の	賣	言	店	タ	家	は	へ	の	。	ル	農	ち	並	市	相
そ	張	箇	Ⅱ	ふ	卸	一	か	も	ト	不	。	バ	家	あ	べ	場	場
れ	る	屋	が	現	高	街	ら	と	上	均		タ	り	洋	た	と	思
が	と	に	市	象	品	に	も	餘	ラ	等		サ	所	人	卸	つ	て
明	見	浜	價	中	が	ミ	井	り	フ	。		ス	は	市	店	て	賣
日	た	山	下	由	多	と	所	程	フ	か		カ	出	場	。	中	つ
の	た	積	落	度	く	店	へ	集	に	け		チ	し	と	イ	ウ	て
標	り	み	の	見	て	を	構	め	買	る		エ	に	一	ー	オ	る
準	式	ん	原	た	困	へ	一	て	出			ワ	来	此	ス	タ	る
マ	に	た	と		つ	て		来	し				る	は	ト	ー	
ラ	で	い	ある					る	に					ト	エ	街	

山一物産

精製

Y. YAMAGA

方は減り高れの出、は農家に
 此の場合は極め、山嶽にある。
 此の場合は人、儲か、ふい、し、概
 然、儲か、る、概、に、出、る、天
 候、異、な、る、限、り、永、く、に、市、場、は、上
 る、あ、る、の、ふ、あ、る、は、り、場、合、只
 一、つ、の、方、法、は、同、業、相、協、同、と、生、産
 物、を、統、一、し、新、し、い、市、場、を、開、拓
 し、新、た、な、市、場、を、開、拓、す、他、方
 面、へ、向、け、る、概、に、と、た、あ、る、自、然、に、市
 場、傾、倒、に、統、持、出、る、の、ふ、あ、る、
 即、ち、キ、ヤ、ナ、リ、一、側、と、の、契、約、
 都、市、場、と、の、聯、絡、等、ア、ス、パ、ラ、が、久、の
 市、場、は、未、だ、生、産、品、類、と、は、異、な
 る、の、ふ、あ、る、今、年、の、如、き、は、
 一、側、の、キ、ヤ、ナ、リ、一、側、は、一、休、三、仙
 一、休、仙、五、ある、一、休、一、の、キ、ヤ、ナ
 リ、一、休、は、普通、の、市、場、向、け、で、六、仙、五
 五、五、ある、一、休、は、普通、の、市、場、向、け、で、六、仙、五

Y. YAMAGA

Y. YAMAGA

Y. YAMAGA

◁ / ▷

少教者會を催し時局講演會
 日本では、^{ビッパ}~~ハナ~~ ^{ホー}ハナ ^(一九三二)以來
 非常時と言ふ言葉を用ひるが如く
 として國民總動員かゝる今では謂へ
 「新体制」と言ふ事と言ふ新体制
 とは、國民各階級が各自私利を没却
 し、
 上下一人を揃け奉り此の東亞新平
 和の樹立のため協力せよといふ意
 思がある。
 今や力十分由我民に精神總動員
 の必要を実感する處ある、
 ウエリクス・ニコースの二人
 はかりのフサラシは、人々共産
 黨員と見做さるゝ部分の一部分が僅か
 三四人が共産主義者といふもの
 をあつて針付けにされたりする
 一、二十家などの愛国運動にもあ

Y. YAMAGA

◁ 2 ▷

一、ル加色に有様がある。
 日本と異り力十分は各人の集
 合地、各異人種で出来て居るが如
 きあるが故に一玉の運命を賭さず戦
 う場合にほ事柄者は異常に神聖視
 せらるゝ訴へある、吾等の言ひを
 悔ふ暇ありぬ理由は茲にある。
 である、
 曰く此れは曰く露義後に三年も戦
 つても債二十億圓の借金が出来た
 と云うを聞き
 在の曰く是より更に二十億圓は五
 六ヶ月に償つてしまふ
 現に力十分さへ一日に一千萬弗
 の新幣を使つて居る、英米等は
 一日に六千五百萬弗使ふと言ふの
 であらうが、吾々は八%のセールスタズ
 を已に二十年留拂つて居るが求
 る所、第一次世界大戦の借金等（前）
 んに所存ありのである、それに力十分

◁ 3 ▷

夕金人の一人く、
 一日、弗く、葬費の
 借金を買ふ
 ところある、併し
 北は五、由に旅を
 政に借金をするに
 費を看ると、
 昭和十四年、大
 須が四十歳、
 此の簡易傳説と
 此の字に、
 力を加へ、
 一、を、
 政の借金に、
 借り、
 あり、
 中、
 吾々も、
 果、
 五、

◁ f ▷

の地か、録しに放せばとある。是は
 出典を文け、曰く公債に振向ける可
 きとある。力十ダが収けたより、
 々も其々に破滅するた。

曰く、人には差別待遇をせよと言
 う。人がある。今回の皇兵令が出た
 時に、曰く、人を豈集めるより、擧
 権をよとよと一驪、一人が大分
 た。一、随分権は初めあり。曰く、人
 に、は、是れ、ある。たのが、私、は、今、

是れを設け、ある。ありに、
 の、を、あれ、た、た、た、の、政、院、史、の
 中、か、り、扱、い、を、皆、を、ん、の、法、を、考、へ、る、
 百、一、即、ち、一、八、五、五、年、に、一、判、り、
 かり、ブ、ー、金、山、が、業、見、を、れ、を、か、り、
 即、ち、人、滑、脚、者、が、法、山、へ、り、い、み、日、人、も
 法、山、へ、山、を、た、り、を、力、り、ブ、ー、か、一、
 の、選、考、正、に、成、つ、て、代、議、士、を、選、考、す、
 あり、に、成、つ、た、其、中、外、の、選、考、者、は、
 は、選、考、と、し、て、二十、三、月、に、上、

Y. YAMAGA

◁ 5 ▷

[illegible]

Y. YAMAGA

△ } 6 } △

の
此の失権の
由白人が非道だとばかり言ふのは
出来ぬ。いゝところある、吾々一世は
とゞく今でも選挙権を争つて居た
と英独不解の結果結果投票の要請
を繰返すにあらう。これは如何か好
く知つて居る、併し吾々の二世は
充分に英独を解するの力がある。
伸張選挙権を獲得出来ると思ふ。
この力がある。併しそれゆへに第二世
が日本を中心として力を加へて
西と考へるといふやうに思ふ。
百あり、それは、失権恢復は不
可能である、
力加へれば平素に於ては玉座の威
収め約四割五分を教育費に使ひ、
これがある、各村舎に於ては、学務課
の手筈を先づ支出し、然る後に道

Y. YAMAGA

△ 7 △

成つて居る。而ち教育は一之を以て
る。現在、文相ウエヤ一博士は、
し、一、大学教授時代から、非常
な、昭和、教育家である、
彼れが、今回、海軍に参入、海軍
規定を提議した、可にも、
由がある、
力、十、分、は、村、金、と、政、府、を、
学、費、の、教育、費、が、一、年、に、八、十、
日、本、人、の、家、庭、か、ら、三、四、人、由、
に、行、く、と、う、は、三、百、六、十、
要、を、る、が、日、本、人、農、家、の、一、
に、於、ける、平、均、税、率、は、学、校、
一、は、一、に、十、五、加、所、有、と、
約、十、四、五、十、の、負、担、を、決、し、
の、子、供、の、教、育、に、要、する、費、
一、由、出、し、て、居、る、形、に、あ、
カ、ス、ト、と、あ、り、て、な、る、自、
を、の、が、言、ふ、の、は、漢、語、は、
か、些、い、な、め、一、に、な、る、の、
学、校、税、と、し、

Y. YAMAGA

△ 8 △

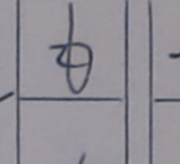
軍に出し居るゝの加白人等
 平の糧に成るゝ有るが、併し
 其は學校統制の欠缺であつて、
 何人のおち致すは定いの有る
 一人頭算、今年八、九十弗也
 かけ玉民教育をせしむる力と
 としと若し外玉諸を教へる學校に
 於て力と玉民教育に及し外玉中
 心の教育をせしむる可なりと
 彼等は面々に閉鎖を爲すは
 當然の要理である。
 吾々曰く、読の教育會に於ては
 二十四五年中から力と夕の
 善育をせしむるを要するが、同
 時とせしむるに成るゝ有る
 有が先達としての教育會には、
 鑑み、其れを再認識せしむる
 要あり、読の教育會に於て、
 實に於て、善育を力とせしむる
 善育をせしむるが、力とせしむる

Y. YAMAGA

△ 9 △

3 4 5 6 7 8 9

美空ひばり

た、五に三つあるもののうちでは何時も
由力な知識の交換を絶えず行ない
併し他校に於ける他の文部省の諸
市の教材の取捨選択には一休講が
やり又たといふことを實行するか、臨
とた宣史が、この式の是非は教へぬし
と言つて信じて是れするか或る中
ち、由力の強さ・吾々には十分な力と
送り出す結果ありあらず否、


天立

同心精神

Y. YAMAGA

④の日にSSで決す（九回一、二冊）
昔々大昔、何々の越後の松山と
言ふ山奥に一人の人が其の若い妻
君と二人住んで居ました。昔々に
お母さんによく似た一人の娘の子
が有りました。
此の家は可愛く、ピーを中に
トテ无幸福に暮して居ました。
山奥ですから汽車も自走車もなく
それな所でした、それ
でも何う不平もなく平和に暮しが
続きました。此の娘はまだピー
の時にお父さんは高貴に達し、
都會に出入りして居ました。
お母さんとピーは淋しく家に
残し、
「お土産を買つて来るか」と
お父さんは次第とあした。
お母さんは悲れた某村の方へ他所

天立

協力同精神

Y. YAMAGA

2

へおちるが家のいのお父さんが一
人静かに坐る方が思ふしと思ひ
あした帰してお話に夢いゝを
美しい花の都に良人の旅立つのを
うれしとて男はあした、
淋しいお留守が永らく続いたま
とく、良人が帰つて来ると言ふ
樹が来たした。
お母さんは一丁籠の新物遊びで
にはか着せ。自分も良人が好んで
居た一丁籠を着るやうにとおもひ
えはあきらめた。
良人が遠方を深山の奥玉屋まで
ついで歸ると来たので嬉しくあり
た。でも、お父さんが帰つて来
たのと少しはお年々きた、いま
此所に来た、お父さんより次いだお
ちやうど子供とて夢中な遊ばし
た、お母さんは古文書が兒を集
たり数々の面白いお話をしてあそ

天立

協力同精神

Y. YAMAGA

3

夢を入り、さうに現れ、とせに眼を
 張る。おどろき、さうした。お父さん
 は
 「お前に珍らしいものを貰つて来た
 上だから、これは鏡と言ふものだ」
 、此れを見せ、お覧。さうして夢の中
 に何が見えるか言つてお覧」とお
 母さんには言ひました。
 さう言つて白木の箱をお母さん
 に渡してあげた。お母さんは珍らしくし
 ろうに黒箱を開けました、中には
 裏が白い銀鏡の丸い蓋の巾着があ
 り、蓋裏を見せ、さうした。
 其中に美しい女の人がニコニコし
 て、自分を見せ、さうして、撫さうと
 顔を見せる。
 「何が見えるか」と又夢をさうした
 「美しい女の人が私を見て居るさ
 うとし、さう私に話しかけて居る柳
 川を動かさうとさうする中、

天立

神同精神

Y. YAMAGA

4

此人由フルエーの衣物を着て居るが
「お爺はおバカだね、其の女の
はお爺の^新衣は金いかしと云ふはほ
こりし物に言ひあした、今しそ
「昔のたいののは「鏡」と言ふ由
のを、此の山奥では誰も持て居
ないが、都府には誰れも一つづつ
持つて居るものだからと教へあし
た、

お母さんは此の分りしいお土産
を買いて帰るからと云ふが
「お爺、何と云ふ今迄鏡と云ふ物
の存在が知らなかったが、自分のお
爺さん、一度も見たりが金いかしと
云ふ事を知り、

此人も村に金いり物や
毎日使ふのはモツタイ金いと考へて
お爺の中に千円と銘の、大さな物

天立

協力同精神

Y. YAMAGA

5

と共に大切に蔵つて置くに決めた
それから幸福を築き、年月が流
れ去った、娘が新米に浸る大
く成り果した、村の人々共々
い顔、やさしい気運、お母さん
とつぐりの次の娘を可愛がり
人は居あせし、
お母さんは鏡のうしろを
覗いた、それは美しい顔を
見ると、
い自慢心起つてはあんな
たかす、
お父さんは鏡のうしろを
覗き、
即ちその娘は丁度お母さんが若い
時、
お母さん、親切でお世辞も知らず、
成り果した、
此のハ、
金の毒あがり起り、
お母さん、

天

幼幼同精神

Y. YAMAGA

◁ 6 ▷

此の好い、親戚のお母さんが病氣
に成られ、娘が一里急余看護しま
した。が、後々弱るばかりで、とうく
もう助からずあゝと言ふうちに成りま
した。
お母さんは此の可愛い娘と良人
を殊にと神杯の夢へ行かねばなら
ぬ事を覺つた時、お母さんは娘と
分かれねば成らざるが非常に悲し
かつた。儀とお母さんは張るねば
あらぬ、娘を呼びよせと言ふのに
「妾はもう」とも助かるまいと思
ふ、可憐な日にお別れねばあらぬ、
お母さんの生きたる間に名前はお
来しに改載し、此の鏡をお前に上げ
るか、お前はお母さん、お母さん
はお母さんだと思つて、お母さんと
~~お母さん~~
の鏡を見え、お母さん、お母さん
んの顔が見え、お母さん、お母さん
を以てと見守つて居るよ、と云う

天立

力効
同
精
神
と
保

Y. YAMAGA

◁ 7 ▷

乙鏡を取り去る娘に母はあつた
 、娘は泣き、お母さんに約束
 しあした、お母さんはそれまで
 と安心と名前に静かに呼吸をとり
 りあつた。
 此の正通と約束を好く守る娘は
 夫と其のお母さんの言ひ付けを
 高に守せんとした。初と毎日は
 又お父さんの世話をし、此の鏡
 を出るとは母の死した。
 乙の鏡に母の愛の人はお母さん
 の死の時のたのしみ、婆がした。
 母のお顔は母さん死ぬ時の顔や
 青がぬれた顔で、母に希望に満ち
 た眼や美しい若い母であつた。
 母に鏡を見る時には生きたお母
 さんにお話をきき、母に、其母にあ
 つた、つかりた、我慢した
 母にかつたり、母の死を話す
 の死した、母の死に、母の死

天立

力助同精神

Y. YAMAGA

◁ { 3 { ▷

にはお母さんに昔日の人を
 つとめつゝは我慢をし、忍
 びの時でもそれを耐え、お母
 が花を知れるる柳を進行の
 お母さんに依頼した、
 こうして毎日、
 さんの目の前を暮して居る
 生懸命お母さんが生きて居
 るとつとめられた。そして
 んがきりうたり心配する
 は、お母さんの果し方は鏡
 にお母さん今日もお母さん
 下を歩く柳を歩かせた、
 と言ふことが、
 此の娘が毎日鏡に伺ひ
 して下を歩かせる、お母
 さん、お母さん、お母さん
 と思ふ、お母さん、お母さん

天立

協力同精神

Y. YAMAGA

9

は彼女に一体お前は何をしてる
かと笑うとした、娘は
「お父さん私が鏡を見るのは毎日
お母さんに言つてお話しがしたい
からだよ」と言つてお母さんの貴
重な首飾を盗み出した。そして
お母さんの貴重品通りにして居る
と知つて泣き出した。
吾が子が其の母の貴重品通りに正
に、忠實に、單純に、よく言ふ
べきことを行つて居るのを見て、お
父さんは嬉し涙が出た。
そして其の鏡に自分の姿は母の
はやく自分の顔だと云ふ事を教
えるやうに出来るやうにした。
娘の顔はいつか見えて居る母と
會つて死んでから母の感化を受
け、款曲の心で美しい母の通りの姿に
成つて居たからだよ。

天啓

心同精神とば

Y. YAMAGA

即ち一	金	其	が	分	互	之	欠	民	幸	の	至	娯	万	之					
家	金	の	が	分	互	之	欠	民	幸	の	至	娯	万	之					
族	金	の	が	分	互	之	欠	民	幸	の	至	娯	万	之					
の	金	の	が	分	互	之	欠	民	幸	の	至	娯	万	之					
並	金	の	が	分	互	之	欠	民	幸	の	至	娯	万	之					
多	金	の	が	分	互	之	欠	民	幸	の	至	娯	万	之					
の	金	の	が	分	互	之	欠	民	幸	の	至	娯	万	之					
温	金	の	が	分	互	之	欠	民	幸	の	至	娯	万	之					
か	金	の	が	分	互	之	欠	民	幸	の	至	娯	万	之					
い	金	の	が	分	互	之	欠	民	幸	の	至	娯	万	之					
親	金	の	が	分	互	之	欠	民	幸	の	至	娯	万	之					
切	金	の	が	分	互	之	欠	民	幸	の	至	娯	万	之					

天啓

協力同精神

Y. YAMAGA

と、利己主義を没却した足る愛を
 社会に民族に世界人類に及ぼさう
 と云ふのである、
 各個人は社会の一員として社会
 体の為めに働かざる、社会全体が榮
 富ある家庭愛の中に生活する事
 あり。
 一口心一ト、ナニと。
 彼れは英西の貧乏の家に生れ、
 幼少より労働生活を送り、克己勤
 勵を志す。十八才で靴を縫ひ、
 一紡績工場主となり莫大の富を
 成した人である、
 彼れは貧乏生活を知りて居た。
 彼れは工場に貧乏に同情する可く彼
 れは富に貧乏に同情する可く彼
 れは其理想と同情を以て、彼
 の工場は労働者の天恵と呼ばれ
 百倍の富に労働者を養ふした。

天立地

Y. YAMAGA



彼れは普通労働者が、丁度彼れ
自身（通称）の如く、工場を所有し、管理
する様に成るならば、たとえ考へた、
自身の考へ通りになつてゐるか
失敗に終つた、
自分はその位で満足せず、
家が……と云ふあたりから
家がある、と云ふあたりから
彼れは食料の生産改善の爲めに
全部の財産を使つて一八五一年に
死んだ。
口々々の口々にやん
・・・が力半で才工の如く
社会苦情運動の爲めに、仲間を
生創設して「仲間」と言ふ雑誌を
発行した。が彼の生涯中に其の
成果を挙げることが出来なかつた。
才工も或る程度には理想家を安
らぐ思想家で、社会改良の理想は持
つて居たが、彼は實際に商売を
する方法（テクニック）を欠いて居た。
に死んでしまつた。

天立地

Y. YAMAGA

◀ ▶

市	会	資	値		に	一	底		等		に	建	名	民		即		兄	社	オ
か	効	本	上	経	秘	ハ	下	一	身		富	が	の	街	一	あ	口	出	会	イ
た	を	家	の	工	人	二	あ	八	が		行	消	元	に	八	ア	ッ	と	政	エ
の	あ	に	ス	連	的	外	つ	回	そ		出	費	気	本	四	チ	た	の	美	二
知	た	庄	ト	は	不	リ	た	二	れ		方	組	の	七	年	ン	が	理	や	キ
る	、	せ	ラ	吟	況	一	、	年	を		法	合	の	名	々			想	々	レ
依	一	れ	イ	入	時	回	入	時	富		を	主	ハ	の	リ			を	加	ク
然	事	ス	キ	あ	代	時	家	は	り		編	最	始	フ	ウ			実	持	フ
と	糧	ト	ヤ	い	あ	と	は	其	初		出	中	人	レ	チ			現	つ	エ
し	食	ラ	タ	為	つ	言	吹	の	め		し	平	あ	工	ル			方	所	た
、	が	キ	バ	に	た	た	の	事	た		、	下	リ	と	の			志	理	理
	張	出		任		信	金	金	が		彼	客	人	一	員			を		

天宮地蔵堂

Y. YAMAGA



職工達は低廉な給料で長時間酷使せられた、
神無月、神は出雲に皆行くに
あせに行かぬか貧乏神殿と
唧っ曰が張いた、
彼等に取りま唯一の生活の方法
は、僅かに得た金を引伸して使ふ
事である、少しの金で沢山品物を
買ふ事である、
彼等は其の生活法に守つて自放
自棄せず、どうにかして切り抜け
うとある希望を捨てず、非常な勇
氣と英武な果敢の根柢とを以て考
へ抜いた、
そなたは協同消費組合は数十年前から試み
られたが、皆失敗であった、
昔の熱心家の一人に千中一も不
、ハウオースと言ふ人が居る、如
所にたとへて協同消費店が少く
くか日産孝へて居た、トトと
か、入浴中に考へ付いた、彼れは
着物を着ておし極中、団士の
所へ

天立地

Y. YAMAGA

八 磅 出 来 た ・ 此 の 根 気 と 勇 気 は
 一 団 団 員 に 二 や 三 づ づ 積 み 立 て
 確 に 成 功 的 根 気 よ く 積 み 立 て 廿
 金 い ち 二 三 百 金 積 立 て 廿 四
 五 十 ぬ 一 百 金 者 の 集 り で 資 本 金 は
 店 主 部 門 に は 資 本 が 多 く 十 五
 賛 成 し 部 門 た ・
 意 一 の あり 方 に 気 付 き 一 同 設 々 と
 何 水 上 船 会 運 用 方 法 に 一 新 し り 創
 と ・ 其 れ 迄 に 試 み づ づ さ せ た と 思
 が ・ 彼 々 の 説 明 を 聞 い て 是 々
 紹 介 店 ・ 同 士 一 同 は が 力 け り と た
 二 三 歳 迄 と 多 く や っ ぱ り 失 敗 し た 協 同
 づ づ 同 士 は 一 十 一 二 知 れ と 其 れ 迄
 付 づ 協 同 店 に た と 口 を 叩 っ た ・ 集
 ハ ン タ 一 ス は 矢 張 り 吾 々 を 救 ふ 迄
 ハ ン タ 一 ス の 創 意 を 受 け ず に と た
 早 速 同 士 廿 八 火 の 集 合 を 催 し て
 と 繰 返 し 叫 び た ・
 新 び 込 ん で 一 ア イ ・ カ ン ト ・ イ ッ ト

天立地

Y. YAMAGA

◀ ▶

常識を逸してゐる様に思ふ。左の如く
 人は此等其の各々一ツレ一ツレに少
 井一ハ一と云つた。
 一九二二年一月廿一日に會
 其ハ八磅の寶物金を盗取した。
 其の寶物金は少井ハ一一杯位
 亦、又、品しかゝつた。少井ハ、
 等はトッドレ一と云ふ。東京の暗
 い倉庫の由で一周留に二夜開店
 するにしたら、斯うして一二年の終
 りには、今更其八名かゝ七十四名
 と成り三千五百名の輩上りとした。
 三年後には一千八百五十名と成り
 四十万円の総売上を上げた。
 其が後々成長して今更は一ツ年
 十億、
 今更は其八名かゝ七百五十万人
 と成り、雇庸人員三十万人、総留
 七、六億七千万円。
 購買言への御金一ツ年一億。

天高物相場

Y. YAMAGA

15/8

五 五 戸拂に及んだ
廿 八名が作った口アチルを
一 オールエツキの組合改選
理 想は工場労働者の労働者に
の工場を所有せしめる事にあつ
たがロソチールの
「日常品を買ふ者が其店を持
靴を買ふ者が其の靴工場を持
ブレッドを喰ふ者がビールを所
有し強豪と管理せよ」と言つた
之れを讀みつめると
「日常消費する品物を配給する店
を其の消費者自身が所有し、管理
し、其の品物を喰ふ工場を所有し
管理する」
之れが消費組合の原理である。
二 オールエツキの組合偉大
社会運動家の其の行方が一員
労働者をヘルゴとする為の一上
層から下層へと三者の慈善運動

天啓物年場

Y. YAMAGA

◀ ▶

<p> 臨 か り 締 結 が 起 る と 失 敗 解 散 し た </p>	<p> は ち ら 皆 銀 行 や 運 用 手 法 の 欠 </p>	<p> あ ら ば こ れ や と 試 み 上 消 費 組 合 </p>	<p> 票 し た 、 </p>	<p> 或 者 は 各 自 の 持 ち 株 数 に 依 り 出 資 金 に 対 し て 利 益 を 配 当 し た </p>	<p> は 出 資 金 に 対 し て 利 益 を 配 当 し た 、 或 者 </p>	<p> つ た 、 或 者 は 債 券 を 出 賣 し た 、 或 者 </p>	<p> 者 は 原 價 に 費 用 を 加 け て 安 く 賣 出 し た 、 或 者 </p>	<p> の 種 の 社 会 運 動 が 試 み せ ら れ た 、 或 者 </p>	<p> 万 部 に 已 に 約 五 十 万 圓 各 面 面 此 </p>	<p> 口 7 千 デ ー ル 結 算 二 等 が 成 立 した </p>	<p> 口 7 千 デ ー ル 式 消 費 組 合 の 原 則 </p>	<p> 相 違 い は 成 立 した 、 今 日 の 大 を 成 立 した </p>	<p> 組 合 は 成 立 した 、 今 日 の 大 を 成 立 した </p>	<p> 運 動 が 成 立 した 、 口 7 千 デ ー ル 式 消 費 組 合 </p>	<p> オ ー エ ー 、 中 心 の 上 か ら の 社 会 </p>	<p> と 財 力 を 上 げ た 、 其 の 為 が </p>	<p> 身 が 生 きて 行 く 為 め に 彼 等 自 身 の 能 力 </p>	<p> 遂 に 、 社 会 の 底 層 か ら 、 貧 困 者 自 身 </p>	<p> 玉 子 あ っ た が 、 口 7 千 デ ー ル の 其 </p>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

天
高
知
幸
場

Y. YAMAGA

其の爲めに消費組合は理論上
 いが実行は不可能と言ふに成
 つて居た。
 之を更に更に新しい主義方法
 が考案され、消費組合は理論上
 に隆々と成功発展したとある。
 其の新原則、
 一、一人一票、
 二、投資株金に對しては銀行利子以
 上は払はぬ。
 三、純利益金から株金の利子を払ひ
 一定の積立金、教育宣傳費など
 を控除した残余金を會員各回の額
 金利用に應じて分配する。
 此組合店の商賣は嚴格に現金取引
 價を以て行ふ。
 五、誰にでも入會を許さる。
 六、協同教育を不變の力に知らしめ
 成さ、
 七、常に他の協同組合と協同し終局

天高物相場

Y. YAMAGA

利息を払ひ一日十仙の積立	六ヶ月後に資本株に封じし四分	十仙か、り新代四弗八十仙あつた	標銀、配達等の増収が合計二弗九	入配達を多うにとた、牛、銅料と	二仙たつたのと同市價で金貨の買	其のりといふの市價は一コ一ト十	弗少し出ると合つた、	弗を買ふ、其の銀を二十白が五	一日に十か口の銀が出る牛を百	た、	銀を標し瓶詰めしを金貨に配達し	を買つた、誰か責任を以て銅を	或る處に二十家族が協同して牛	例	かあるか、判断出来るか、	5個人強管の店と何家の呉に相違	右の協同方法を実施せるとした	に参加する標に心をかける。	は、国内の総協同、或は世界の協同
--------------	----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	------------	----------------	----------------	----	-----------------	----------------	----------------	---	--------------	-----------------	----------------	---------------	------------------

天高物相場

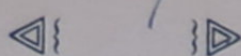
Y. YAMAGA

此の成績は協同の力に依つて乳
 仙安に買つたものに成る訳である
 八仙を買つたものに成り一コト四
 一即ち一コト十二仙の如くを
 一帯六十仙の割戻しを受けた
 一日に三コト一を買つた者は廿
 中の七帯二十仙を割戻しを受けた
 一日一コト一、六ヶ月間買つた
 し四仙の割戻しに成つた、だから
 配するものに成つたが一コトに
 之れを合算の購買高に充てると分
 った
 月間の利益金合計六百八十八円に成
 一日の純利益を六十仙即ち六十
 し一、一日を六十仙の支出と成り
 此地に同様の牛乳組合が出来た
 千を支出し、會長は其金と他地方
 入旅行し、帰国牛乳の強幹談をし
 金とした、其他に教育費として若

天高物産場

Y. YAMAGA

3/12



ある。	即ち	政治	民主主義	協同組合	在つては	其指す	標	が	多少に	不拍	一人一票の	平等投票	権	一か	年	の	ある	それ	が	資本	力	より	由人の	力	加	重ん	ぜ	ら	れる	の	ある	。	即ち	政治	民主主義	協同組合	在つては	其指す	標	が	多少に	不拍	一人一票の	平等投票	権	一か	年	の	ある	それ	が	資本	力	より	由人の	力	加	重ん	ぜ	ら	れる	の	ある	。
-----	----	----	------	------	------	-----	---	---	-----	----	-------	------	---	----	---	---	----	----	---	----	---	----	-----	---	---	----	---	---	----	---	----	---	----	----	------	------	------	-----	---	---	-----	----	-------	------	---	----	---	---	----	----	---	----	---	----	-----	---	---	----	---	---	----	---	----	---

天啓物産場

Y. YAMAGA



一人一票が原則であり人百位の
の政治原理であるからば、協同を
やる商業に於ては同様に一人一票を
与へては成らぬのである。
利益配分は1000万のうちの
一番大切であるが此の利益の配分
方法で之は組合の利用率に應
じて分配する。
一九二九年―一九三二年迄に英
国協同消費組合は其會費に六億
の利益金を彼等が購買高に依りて
分配した。此の年は世界不況の初
期であつたが六億の大金が數人
の懐中に収まるや如何に数人の
富豪民衆の懐中に、其消費高に
應じて分配された乎は其協同組合に
対し偉大な貢献であると思はれ
ばあらぬ。
即ち1000万のうちの幾分を
与へ、

天高物産場

Y. YAMAGA

◀ ▶

一、消費者が物品を賣る店の管理者
 として、現金、市價を算出する。
 一、一人一票を有する。
 一、組合利用者に應じ、利益を分配
 する。
 の三大原理の上に立ち、
 協同の目的は消費者が、店を所
 有し管理し、利益は公平に利用す
 るにあり、即ち店の買手に應じて分配するの
 にあると云へる。
 消費組合とは同法で
 百姓（生産者）の協同組合が出来
 るかと謂ふに、*yes and no*
 農業生産者の場合は協同して賣
 るのはあるが常に競争市場で賣
 る必要があり、保し一人一票と、
 組合の利用等即ち出資等に應じて
 利益を分配するとはある、
 生産者、協同が消費者に利益に成
 る事。

天正物産場

Y. YAMAGA

牛乳業者が協同として
組織し莫大の利益を得たと
、消費者は利益を得るか、
消費者は自ら協同組合を組織し
て配給方面の仕事に協同して
ては成るが、消費者の門口迄配達
する事は協同農家の競争の分限以
外と考へる。消費者が協同として
消費店を組織し、生産者の生産し
た牛乳を公平に分配する事を
百上に協同の利益を得る事がある。
、農家は協同して品質精製した
のを産出し、あるが、それを消
費する都市住民も、田舎の人達も
消費組合を作り、中間人に儲
けられずなる所だ。
英王は工業品であるが、消費組
合の発達に都合が良かったが、力
十の如き農業品に在つては生産
者の組合が主に発達するに都合が

天正物産場

Y. YAMAGA

好いと言ふ考へ方は正に古くあつた、農家自身が生産組合を組織する外に、農家は最大の消費者である故に消費組合を結ぶ事が至當である。世界で有名な例として、イギリスの全玉産綿織の九割が協同農家の手に生産される。世界に驚異と云ふ所があるが、彼等は消費者と云ふ又た農家の利用者と云ふ各種の消費、利用組合に加入して、店々の利がある。農家も消費者として組織、力加の農家が生産者の協同会と結ぶたとき、それは留置して店を、山や三町のいふ所の町にも、協同組合を持つて店を、それが各地農村の協同組合へ卸して店をのりあがり、

東都に、ハスコシヤ等には

天立物年場

Y. YAMAGA

新	高	新	効	土	華	莫	倉	合	利	大	榮	シ	洋	オ	組	購	三	協
所	島	加	果	地	は	大	庫	機	用	二	展	ラ	沿	レ	織	買	幣	同
と	に	カ	を	と	肥	東	を	を	組	タ	と	岸	諸	タ	を	シ	費	
見	供	買	養	作	柳	利	建	買	合	リ	あ	州	州	タ	水	ラ	組	
と	給	ふ	中	物	の	益	と	フ	か	る	る	に	に	タ	糸	ブ	合	
協	と	り	中	に	原	を	其	と	出	大	あ	旅	に	タ	達	、	は	
同	協	力	利	通	料	受	変	鉄	果	正	る	力	に	し	あ	始		
の	同	不	益	当	多	け	と	道	と	は	る	、	、	、	る	常		
利	の	少	普	東	研	と	肥	線	居	沃	、	小	、	あ	と	有		
益	利	と	通	の	究	居	柳	路	百	山	費	き	、	る	ど	速		
は	益	安	の	を	し	に	を	の	、	の	組	東	、	、	後	を		
單	單	價	肥	研	、	に	混	近	彼	肥	合	と	購	、	と	次		
		に	柳	究	自	、	合	人	等	料	混	西	買					
		各	會	し	分	、	と	に	は	混	合							

天高物市場

Y. YAMAGA

に	吾	に
あ	々	一
ま	自	号
い	分	に
と	分	に
行	が	上
く	管	米
可	理	々
に	と	す
成	分	同
る	々	々
○	買	と
	賣	の
	を	方
	有	面
	利	に

Y. YAMAGA

[illegible]

天立地物年場

Y. YAMAGA

[illegible]

Y. YAMAGA

[illegible]

Y. YAMAGA

一、を管する
二、を管する
三、を管する
四、を管する
五、を管する
六、を管する
七、を管する
八、を管する
九、を管する
十、を管する
十一、を管する
十二、を管する
十三、を管する
十四、を管する
十五、を管する
十六、を管する
十七、を管する
十八、を管する
十九、を管する
二十、を管する
二十一、を管する
二十二、を管する
二十三、を管する
二十四、を管する
二十五、を管する
二十六、を管する
二十七、を管する
二十八、を管する
二十九、を管する
三十、を管する
三十一、を管する
三十二、を管する
三十三、を管する
三十四、を管する
三十五、を管する
三十六、を管する
三十七、を管する
三十八、を管する
三十九、を管する
四十、を管する
四十一、を管する
四十二、を管する
四十三、を管する
四十四、を管する
四十五、を管する
四十六、を管する
四十七、を管する
四十八、を管する
四十九、を管する
五十、を管する
五十一、を管する
五十二、を管する
五十三、を管する
五十四、を管する
五十五、を管する
五十六、を管する
五十七、を管する
五十八、を管する
五十九、を管する
六十、を管する
六十一、を管する
六十二、を管する
六十三、を管する
六十四、を管する
六十五、を管する
六十六、を管する
六十七、を管する
六十八、を管する
六十九、を管する
七十、を管する
七十一、を管する
七十二、を管する
七十三、を管する
七十四、を管する
七十五、を管する
七十六、を管する
七十七、を管する
七十八、を管する
七十九、を管する
八十、を管する
八十一、を管する
八十二、を管する
八十三、を管する
八十四、を管する
八十五、を管する
八十六、を管する
八十七、を管する
八十八、を管する
八十九、を管する
九十、を管する
九十一、を管する
九十二、を管する
九十三、を管する
九十四、を管する
九十五、を管する
九十六、を管する
九十七、を管する
九十八、を管する
九十九、を管する
一百、を管する

Y. YAMAGA

定

五、① かりきりとして口をビヤカ果物、
及此ル少一ノ市場管理局と稱す
る一局を設け、本部を以てする
ハ市に置く。管理局は三名の兼
^{新職員}職員より成る。^(該職員ハ)本場ノ定むる所
に從ひて登録したる生産者たる
可し、而して別に定むる規定に

經ハ毎年度改選を行ふ。

右三名ノ委員中一名ハ日本人た
る可し、

六、② 最前ノ管理委員ハ左の通り推
挙す。

一、

二、

三、

五、③ 事務局ノ委員ハ禁、後進者が
選舉せらるゝことヲ務むる司る。但

Y. YAMAGA

上	再選を妨げ、
六(一)	管理局は管理区域の凡そ
	の農家に専ら管理局に登録する者
南	先づ登記送付、
六(二)	本法案が閣議の協賛を得たる
上	・管理局は一九三五年度管理
法	下に登録せられたる農家を合
計	登記簿を作成し、第六章第三
に	規定する通知状を送付し、以前に登録
を	完了せしむ。
六(三)	管理局は編下りの登録を承
	る生産者に通知状を送付す。該
通	知状には本法を引続て施行す
	るや否やの一般投票の時日を明
記	す。且つ同通知状には第五章
	第一項に開き、委員選挙の通知
を	由會む。
六(四)	一般投票施行に關する必要条
	件一切の手續及び事務は市郷
管理	局が任令したる常務委員の

Y. YAMAGA

△



選挙の下に管理委員会之れが
 行に當る、
 六(五) 投票は前記通知に定められ
 たる時、日以、所定の投票受付
 所の開票委員宛に郵送或は直接
 届け与る可し、投票用紙に投票
 者の署名を要す、
 六(六) 開票委員は投票を受付賛、
 否を計算し、町農務大臣に付し
 賛成、反対共其人数及び管理委
 員物の耕作反別の統計を報告する
 ものとす、農務大臣は該法存続
 に要する票数及び耕作反別の割
 合を決定を可し
 管理委員会
 七(一) 管理局は第二章第三次に開
 する通知状に於て、管理委員会の選挙
 行方と記載し、
 投票者
 万場所及び時日を由り明記を可し、
 第二章以下は右同様の方法に

Y. YAMAGA

依つて毎年十一月十五日以前に
之の水を算じ、
七(四)の推薦状は表面に認め二十五名
以上の登録せられたる生産者の署名
及び住所に被推薦者の承諾あるもの
を以て可し。
七(三)島嶼区に登録せられたる生産者
は白人一名を選挙せしむ。而して
その中より二名を選出
す。其内一名は日本人たる可く
他の一名は白人生産者たる可し。
本土より選出せられたる白人生産
者は管理委員長たる可し。
七(五)管理委員政選挙令附則第四條
局は各登録せられたる生産者に、
郵税先払ひにて投票用紙を送り
投票日及び受付場所を通知せ定め
該投票用紙及び通知状は定め
られたる投票日の前日のヨリ
十日以前に発送せる可きものとす。

Y. YAMAGA

七 (4)	の	其	七 (4)	と	系	清	七 (4)	五	左	七 (4)	の	各	七 (4)	得	英	資	録	七
(4)	候	ノ	(4)	着	左	下	(4)	日	日	(4)	場	正	(4)	得	英	資	録	七
或	補	投	登	看	り	が	郵	以	日	投	分	要	投	得	英	資	録	七
る	看	票	録	る	し	所	送	内	日	票	何	電	票	得	英	資	録	七
に	明	用	を		事	定	さ	に	日	何	該	其	用		英	資	録	七
係	記	紙	水		明	の	れ	完	日	と	投	面	紙		英	資	録	七
り	可	に	た		か	投	た	票	日	と	票	に	に		英	資	録	七
或	し	白	る		あ	票	る	計	三	と	用	係	少		英	資	録	七
る		人			る	日	投	算	日	と	紙	る	数		英	資	録	七
生		一			の	又	票	可	以	と	に	要	投		英	資	録	七
産		番			海	は	函	し	候	と	委	員	票		英	資	録	七
局		本			友	り	白		或	と	任	投	局		英	資	録	七
が		人			部	以	の		候	と	状	票	署		英	資	録	七

効 と 成 る 予 定 し ・	そ の の み の 理 由 に 依 る と 選 定 家	通 不 が 通 か 部 の 増 加 あ り と も	選 定 の 通 分 又 は 投 票 可 能 と 他 の	選 定 候 補 者 推 薦 の 可 能 性 成 成
--------------------------------------	--------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------

Y. YAMAGA

<p>地方 管理 局の 機能</p>	<p>八、 地方 市局 はた の機 能を 有す 可き</p>	<p>(四) 何れ の物 の生 産時 の 常 常 需 要 品 の 貯 蔵 、 及 び 賣 買 の 時 及 び 場 所 を 調 節 し 、 管 理 す る</p>	<p>物 販 賣 の 代 理 人 を 任 命 し 、 又 は 配 給 の 方 法 、 量 、 質 、 等 級 等 を 定 め 、 且 つ 運 送 、 荷 運 り</p>	<p>管 理 局 中 の 如 く あ る 等 級 、 質 、 種 類 の 運 送 、 荷 運 り 、 貯 蔵 、 及 び 常 常 需 要 品 の 生 産 時 の 常 常 需 要 品 の 貯 蔵 、 及 び 賣 買 の 時 及 び 場 所 を 調 節 し 、 管 理 す る</p>	<p>(五) 統 制 下 の 生 産 時 の 常 常 需 要 品 の 貯 蔵 、 及 び 賣 買 の 時 及 び 場 所 を 調 節 し 、 管 理 す る</p>	<p>統 制 下 の 生 産 時 の 常 常 需 要 品 の 貯 蔵 、 及 び 賣 買 の 時 及 び 場 所 を 調 節 し 、 管 理 す る</p>	<p>統 制 下 の 生 産 時 の 常 常 需 要 品 の 貯 蔵 、 及 び 賣 買 の 時 及 び 場 所 を 調 節 し 、 管 理 す る</p>	<p>統 制 下 の 生 産 時 の 常 常 需 要 品 の 貯 蔵 、 及 び 賣 買 の 時 及 び 場 所 を 調 節 し 、 管 理 す る</p>	<p>統 制 下 の 生 産 時 の 常 常 需 要 品 の 貯 蔵 、 及 び 賣 買 の 時 及 び 場 所 を 調 節 し 、 管 理 す る</p>	<p>統 制 下 の 生 産 時 の 常 常 需 要 品 の 貯 蔵 、 及 び 賣 買 の 時 及 び 場 所 を 調 節 し 、 管 理 す る</p>	<p>統 制 下 の 生 産 時 の 常 常 需 要 品 の 貯 蔵 、 及 び 賣 買 の 時 及 び 場 所 を 調 節 し 、 管 理 す る</p>	<p>統 制 下 の 生 産 時 の 常 常 需 要 品 の 貯 蔵 、 及 び 賣 買 の 時 及 び 場 所 を 調 節 し 、 管 理 す る</p>
--------------------------------	------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

及

Y. YAMAGA

統制下にある産物の生産、荷造
り、運送、蓄蔵、或は販賣に關
する人々に対し管理局より管
業鑑札を受けしむる權能、
統制下にある産物の生産、荷造
り、運送、蓄蔵、或は販賣に關
する各種の人々より鑑札料金を
定め、一ヶ月分、半ヶ月分、三ヶ月
分或は毎月之れを徴収し得る權
能、
右の達成の爲め其等の人々の階級
に分類し、其の異れる集團と
り異れる金額の鑑札料を附加せ
しめ、且つ裁判所に訴訟を提起
し鑑札料を徴収し得る權能、
管理局の指令及び規定に従ふ事
を右の鑑札を徴収し得る事、
統制下に在る産物の生産、荷造
り、運送、蓄蔵、或は販賣に關
する人々の一切の情報を要求し、且つ一

Y. YAMAGA

定期	貸付の営業報告を成しめ、
(9) 管理	帳簿及び簿類の検し得る権能、
生産物の定價、最 高價、最低	
價或は最高價、最 低二種の定價、	
等を制定し得、而 して何れ異れ	
る地方に依り異れ る定價を作る	
權能、	
(10) 統制下に在る 産物を運搬する如	
好あるところたりと 其運搬者	
者に管理局委員或 は局の職員	
を之と協同せしむる 要求がある	
權能、	
2. 管理局の指令を 犯し統制下に在る 產物の隠匿、運送、 荷物の	
蓄積或は賣買したる ものを押収し處理す るの權能、	
3. 管理局は受託せる 金員を管理局の費用 及ばねば秘密執行の 目的を以て之を爲す ために使用出来る事。	
4. 管理局が必要と認 め或は管理局が	

Y. YAMAGA

百	從	地	し	内	五	通	百	本	此	援	以	の	在	し	甲	と	を	大	提
や	子	方	の	由	十	等	場	案	等	助	つ	設	る	神	出	酒	成	規	議
在	し	而	能	百	弗	五	有	施	金	と	同	備	産	助	る	め	在	定	に
権	店	の		銀	五	成	理	行	借	為	成	を	物	は	権	た	権	実	依
む	人	命		行	超		局	の	入	め	を	の	加	貸		る	施	に	り
む	々	及		法	世	但	は	為	此	に	を	工	二	付		場	に	簡	
為	が	規		に	の	と	借	必	集	要	援	著	著	に		合	基		
の	遵	則		依	予	負	入	要	金	と	正	著	著	依		之	金		
に	守	を		る		債	此	認	一	認	方	著	統	統		を	の		
其	し	費		金		総	集	め	万	た	調	著	制	制		通	積		
各	つ	買		銀		款	金				査	著	下	下		商	立		
款	あ	に		受		一	部				査	著	に	に		使	と		
及				け		万					査	著							
				受							査	著							
				け							査	著							
				受							査	著							
				け							査	著							
				受							査	著							
				け							査	著							
				受							査	著							
				け							査	著							
				受							査	著							
				け							査	著							
				受							査	著							
				け							査	著							
				受							査	著							
				け							査	著							
				受							査	著							
				け							査	著							
				受							査	著							
				け							査	著							
				受							査	著							
				け							査	著							
				受							査	著							
				け							査	著							
				受							査	著							
				け							査	著							
				受							査	著							
				け							査	著							
				受							査	著							
				け							査	著							
				受							査	著							
				け							査	著							
				受							査	著							
				け							査	著							
				受							査	著							
				け							査	著							
				受							査	著							
				け							査	著							
				受							査	著							
				け							査	著							
				受							査	著							
				け							査	著							
				受							査	著							
				け							査	著							
				受							査	著							
				け							査	著							
				受							査	著							
				け							査	著							
				受							査	著							
				け							査	著							
				受							査	著							
				け							査	著							
				受							査	著							
				け							査	著							
				受							査	著							
				け							査	著							
				受							査	著							
				け							査	著							
				受							査	著							
				け							査	著							
				受							査	著							
				け							査	著							
				受							査	著							
				け							査	著							
				受							査	著							
				け							査	著							
				受							査	著							
				け							査	著							
				受							査	著							
				け							査	著							
				受							査	著							
				け							査	著							
				受							査	著							
				け							査	著							
				受							査	著							
				け							査	著							
				受							査	著							
				け							査	著							
				受							査	著							
				け							査	著							
				受							査	著							
				け							査	著							
				受							査	著							
				け							査	著							
				受							査	著							
				け							査	著							
				受							査	著							
				け							査	著							
				受							査	著							
				け							査	著							
				受							査	著							
				け							査	著							
				受							査	著							
				け							査	著							
				受							査	著							
				け							査	著							
				受							査	著							
				け							査	著							
				受							査	著							
				け							査	著							
				受							査	著							
				け							査	著							
				受							査	著							
				け							査	著							
				受							査	著							
				け							査	著							
				受							査	著							
				け							査	著							
				受							査	著							
				け							査	著							
				受							査	著							
				け							査	著							
				受							査	著							
				け							査	著							
				受							査	著							
				け			</												

Y. YAMAGA

記録の調査を成し又此の目的
 の爲めに會計検査官或は會計計
 算士を遣ふ、又此法を英及此記
 録を授けしを調査の便宜計を称
 該賣買人、賣買主、
 (P)統制下に賣買主、贈物、販賣
 主、賣買主の生産、運送、貯蔵
 及び此賣買主に携行する人々此帳
 簿、計算、記録等一切を英語を
 用ひて記述する事要し又此帳簿
 統制下に在る産物の運送、販賣
 業務及び賣買主の調節及び管理を
 有効に遂行する指令、規定制定
 の權、及び此の取消及び修訂、
 此管理面は毎年度末に於て其の
 會計年度の事業の状況に對し
 當局に提出する可き、但し該報告
 書は適當なる審査を經たす必要
 當局の署名あるものたるを要す

Y. YAMAGA

可	、	管理局には其の本部で勤務所に
生	産	部登録簿とと移転の帳簿を
備	入	置て姓名、住所及び職業
等	凡	そ人々を登録簿記入許可し
十	一	登録されたる生産者の外投票所
出	入	記録せらるべし

星	四品	3	広島県豊田郡川尻所川尻中子	山根正
有賀	七品	2	岡山府石野町七ノ八	神戶定寿
先	四品	1	兵庫縣小倉郡霞城	石原元吉
史	四品	1	東京府板橋区和泉所九二六	太田保雄子
佳	四品	1	東京府板橋区板子町四四〇	平良三
會	四品	1	東京府豊島区立教女子國書館	
農	四品	1	立教女子校	
不	四品	1	立教女子校	
入	四品	1	山口県大島郡和泉所十ノ横	池田中子
	四品	1	岡山県北条郡常盤所立教女子校	
	七品	2	横浜市港北区日吉町四三九一二	吉野慎(即重子)
	四品	1	東京府港区赤坂一	秩父宮妃殿下
	七品	1	東京府宮内省	三石信雄殿
	四品	3	神奈川県大磯町	五井六 其子六 亦一ノ
	七品	2	東京府板橋区立教書院	

¥740
340
¥1080

写取り増

第三回フシザリ沿岸同胞農業者聯合協議会決議文

大正九年十月十五日

於ハートマン農会に協

一霜害防除の建議案

平空農会

二在留邦人の服装及過激労働の防止件全上

三在留邦人の衛生状態改善件

シツレ農会

一本協議会、特別委員四名を選定し霜害防除の研究

を從事スル。但し該委員は各農会、會長ヲ選任スル。

二在留邦人の見シテ在留邦人の善良ナル風俗に違反セハ

服装ナシ若シハ過激労働、從事スルハ對白人關係

上不得業、因テ本協議会、斯ル風俗ノ改善ヲ

期スル。

三在留邦人の衛生状態、國ニ注意甚不徹底ナルモノ

アリ、今後充分ノ改善ヲ期スル。

四第四回定期聯合協議会開催地、ウラノツシト定メ、同日ハ

大正九年九月二十日曜日トス

各農会出席代表者

シツレ農会、藤野采夫、橋爪太四郎、植田進、

ウラノツシ農会、新善太郎、益田徳平、

平空農会、井上吹郎、岡田四郎、高津俊輔、

ハートマン農会、三井重喜美、川本三平、松本采夫、高橋匡